



日本語の総合的な運用能力を測る「日本語検定」(略称・語検)の平成25年度第1回(通算第13回)検定が、6月14日(金)、15日(土)の両日、47都道府県99箇所、海外2箇所の一般会場と、939準会場とで行われました。今回は4万211人が受検し、これまでの累計受検者数52万人超となりました。



「語検」は、敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域について、正しく日本語を使う能力を測るものです。1級から7級まで、小学生から社会人まで幅広い年齢層を対象としています。検定結果については、7月8日にホームページで合否速報が発表されましたが、その後合否通知が7月20日迄に発送されます。

受検申込者は、1級(社会人レベル)413人、2級(大学生~社会人レベル)4162人、3級(高校生~社会人レベル)1万4125人、4級(中学生・高校生レベル)1万2388人、5級(小学校高学年・中学生レベル)5160人、6級(小学校中・高学年レベル)2618人、7級(小学校低・中学年レベル)1345人でした。最年長者は90歳、最年少者は5歳。

東京23区では、豊島区西巣鴨の大正大学を一般会場に検定が実施され、社会人を中心に864人が1級から7級まで受検しました。同会場では、受検は午前と午後の2部に分かれて実施され、また受検する級により複数の教室に分かれて行われました。最も大きい会場では一斉に300人が受検しています。

試験開始の一時間ぐらい前より女性を中心に続々と受検者が集まり始め、会場誘導係の励ましの言葉に多くの方が真剣な眼差しで頷き、中には「勉強していて寝ていません」と答える方もおられました。ほとんどの受検者が試験直前までロビーや会場内で勉強を続けておられたようです。今回は白い半袖にスラックスという制服姿で参加した団体があり、一般会場では通常ほとんどが私服姿の受検者のなかで目を引きました。

